

聖書日課 『からし種』 2023.11.19-11.26

<p>11月 19日 (日)</p> <p>詩編 5編</p>	<p>「主よ、わたしの言葉に耳を傾け／つぶやきを聞き分けてください」(2節)、「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。朝ごとに、わたしは御前に訴え出て／あなたを仰ぎ望みます」(4節)。「つぶやき」は「うめき」とも訳される。言葉にならず、もだえ苦しむ心のうちを主は聴きとってください。「朝ごと」に主の御前に進み出て、主を仰ぎ望む信仰を生きていこう。</p>
<p>20日 (月)</p> <p>詩編 6編</p>	<p>「主よ、立ち帰り／わたしの魂を助け出してください。あなたの慈しみにふさわしく／わたしを救ってください」(5節)。「立ち帰ってください!」。詩人は神が怒って姿を消してしまったこと(2節)に心くじかれ、悲嘆に暮れている。「戻ってきてください!」。私たちは神の慈しみなしには一歩も前に進めない。「共に歩んでください!」。神の伴いを求めて一日を始めよう。</p>
<p>21日 (火)</p> <p>詩編 7編</p>	<p>「心とはらわたを調べる方／神は正しくいます。心のまっすぐな人を救う方／神はわたしの盾」(10-11節)。「心とはらわた」の直訳は「心臓と腎臓」。体の中に血を巡らす心臓と血の中の不純物をろ過する腎臓。私たちがどんな正しさを求め、どんな悪を遠ざけようとしているのか。心のすべてを調べる方の前に「まっすぐな心」を祈り求める者としてください。</p>
<p>22日 (水)</p> <p>詩編 8編</p>	<p>「天に輝くあなたの威光をたたえます／幼子、乳飲み子の口によって」(2-3節)。主イエスは弟子たちの前に小さな幼子を立たせて、「子どものようにならなければ、天の国に入ることはできない」と言われた。人間の業をほめたたえる声が溢れている世界で、幼子に学びつつ、すべての造り主であり、十字架の上に小さくなられた神をほめたたえる者とされて。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.11.19-11.26

<p>23日 (木)</p> <p>詩編 9編</p>	<p>「虐げられている人に／主が砦の塔となつてくださるように／苦難の時の砦の塔となつてくださるように」(10節)。戦場で戦う者にとって「砦の塔」は自分のための援軍を送ってくれる「支え」であり、いざという時には逃げ込むことができる「希望」であった。大丈夫。私たち一人ひとりの今日の戦いを主なる神はご存知であり、必要な「支え」と「希望」を届けてくださる。</p>
<p>24日 (金)</p> <p>詩編 10編</p>	<p>「主よ、あなたは貧しい人に耳を傾け／その願いを聞き、彼らの心を確かにし／みなしごと虐げられている人のために／裁きをしてくださいます」(17-18節)。聖書の地で今日、貧しい人、みなしごと虐げられている人の叫びが聴かれ、その願いが聞き届けられ、その心が確かにされるように。神の正しい裁きがなり、人間による愚かな戦争が止められるように。</p>
<p>25日 (土)</p> <p>詩編 11編</p>	<p>「どうしてあなたたちはわたしの魂に言うのか／『…世の秩序が覆っているのに／主に従う人に何ができようか』と」(1、3節)。私たちの心の中にも、私たちの周りにも「こんな世界の現実の中で、神を信じることに何の意味があるのか？」と問う声が響く。しかし十字架に示された主の真実の愛ゆえに、主の正しさと恵みに固く立つ信仰をいただいでいこう。</p>
<p>26日 (日)</p> <p>詩編 12編</p>	<p>「主の仰せは清い。土の炉で七たび練り清めた銀。主よ、あなたはその仰せを守り／この代からとこしえに至るまで／わたしたちを見守ってくださいます」(7-8節)。約束を必ず守つてくださる真実な神への賛美。聖霊によってイエスを身ごもったマリアも、「主はわたしたちの先祖に仰せになった通り、とこしえに憐れみをお忘れにならない」と賛歌を献げた。</p>